

インターチェンジ周辺の開発の動き

西村 まさ子*

1. はじめに

高速道路が地域にもたらす経済効果には、高速道路を走行することで得る直接効果（時間便益、走行便益、快適性、安全性、車両の大型化など）と、それらを媒介としてもたらされる多くの間接効果とがある。間接効果は工業立地等各資源の開発、市場圏の拡大、生産・流通の合理化等にあられ、経済的・社会的影響は直接効果よりも、はるかに大きいといわれている。

この間接効果は、まずインターチェンジを中心とした沿線地域の土地利用の変化という形でわれわれの前に姿をみせ、次いで地域社会の企業増や人口増による都市化の進展、地域社会の経済構造変化として現われてきている。周辺地域の土地利用は、まず工業立地、レジャー施設立地、ハイウェイ産業（ドライブイン、給油所等）において目立った動きをみせているが、流通施設立地や宅地造成の動きもきわだっておきている。大都市から100～200 kmも離れた低開発地が内陸工業地域として息吹き、従来は交通が不便なために未開発であったところが観光基地として開けたり、あるいはハイウェイ指向型の新しい都市が誕生するなど、高速道路が地域経済の成長発展に寄与する動きが、どのインターチェンジの周辺にも起っている。

もちろん、高速道路を地域経済の中での確かつ、きめこまかに機能させるためには、こうした高速道路の影響で地域経済がどう循環していくか。あるいは工場化・ベッドタウン化に伴い当然要求される産業・生活基盤関連の社会資本整備がバランスのとれた姿となっているかどうか。つまり調和のとれた国土利用のもとで望ましい生活環境を保つためには、社会資本の外部経済効果を高める一方、外部不経済を防ぐ仕組みをつくらねばならない。たとえば、高速道路のインターチェンジ周辺の開発を積極的に地域計画に組込んでいくことによって、そうした産業投資・社会投資の適正規模や資源の最適配分が行ないうるかどうかを考えていくとか、さらに生活・社会環境に及ぼす高速道路の功罪として経済効率以外の要素への影響を把握したり、開発の利益と費用を総合的にバラ

ンスさせるトータルシステムの確立をはかる作業等がなされなければならないが、これらは他日にゆずり、ここでは現状としてのインターチェンジ周辺の土地利用変化をまとめてみたい。

2. 輸送・流通面へのインパクト

輸送・流通面での合理化効果は、輸送のスピード化、車両の大型化などの直接便益と不可分の形でもたらされている。たとえば、高速道路の利用により日程の短縮、車両回転率の大幅な増大、交替運転に代るワンマン運転が可能になり運行効率の上昇がみられる。さらに、高速道路と関連して適切に設置されたトレーラーヤード、トラックターミナル、保管庫なども、そこで取引情報、貨物情報、トラック運行情報などを得る集配送拠点が形成されれば、都市間輸送の効率化とともに都市内での重複・交錯輸送を減らして、流通の簡素化・合理化がもたらされる。

こうした流通拠点開発の例は、厚木、小牧、浜松、豊川など東名のインターチェンジ周辺にすでにみることができる。東名高速、小田原厚木、246号、129号の各道路が通り交通要衝の地となった厚木は、流通拠点の性格の強い街として注目をあびているが、ここでは工業化の一段落したのちに流通センターをはじめ、民間企業の流通関係施設や新聞社の印刷、配送センターの建設や用地取得がいずれもインターチェンジから2～3 kmの地点ですすめられている。小牧市でも、やはり道路条件と工業集積が流通施設関連事業を誘発していくハイウェイ型都市の開発パターンをみることができる。浜松ではインターチェンジ隣接に32万m²の流通業務センターが建設されているが、これは清水港を経由する輸出産業を主力とした浜松工業の海上コンテナ用インランドデポ（コンテナの集配、貨物の積み込み、取出しなどの作業を行なう貨物基地）が中核となった倉庫施設で、今後の流通革新時代を先取りしたものである。このほか豊川インターチェンジ付近にはトラックターミナルがつくられ、東西経済圏への中継流通基地としての発展が予想されるし、このほか、川崎、横浜でも流通センターや総合卸センターが計画されている。

* 日本道路公団経済調査室

3. 工業の地方分散効果

昭和30年代後半から始まった大都市過密地域からの工場の地方分散は全国的な傾向であるが、なかでも高速道路利用のメリットを求めた工場の沿線進出には目をみはるものがある。従来の工業適地が主として市場と資本の集積に支えられていたのに比べ、今後の工業立地要因は整備された交通・通信施設や、十分な土地と労働力であるといわれている。われわれの経験でも高速道路の沿線に立地した業種の多くは製品や材料部品の輸送がトラック輸送になじみ、労働力と比較的安い用地を求めた内陸型の機械、輸送機械、電機器、精密機械、薬品、化粧品、食料品等である。そして、こうした工業の東名進出には二つのパターンがうかがわれる。一つは、既成工業地帯からの外延的拡大で、京浜工業地帯からの内陸部への展開が川崎、横浜、厚木、大井松田の各インターチェンジ周辺で連たん化し、東駿河湾工業地帯の拡大は御殿場、沼津、富士の各インターチェンジ周辺で、浜松工業地帯からは磐田・袋井への拡大として現われ、名古屋をとりまく工業地帯の形成は小牧、豊田、岡崎、豊川等の連たん化となっている。いま一つは、焼津から袋井へか

けての国道1号沿線および浜岡、大浜を結ぶ150号と150号バイパス沿いに展開した約70~80kmもの長さをもつ大井川、中遠の新工業地帯形成の動きである。ここは東名沿線の中で最も開発の遅れていたところだったが、東名とそれを結ぶ道路整備が決定的要因となって、京浜からの分散工場の立地を多くみている。

外延的拡大工業地域の代表格ともいえる厚木(図一)の工業化は昭和36年以降急激にすすみ、100社をこえる企業が進出しており、立地形態は神奈川県内陸工業団地をはじめ、いずれも団地主義をとっている。小牧の場合も、かつての伊勢湾台風の強い被害や名古屋市南部の過密をのがれ東名、名神、中央、東海北陸の接続地点としてのメリットを見込んだ工場の小牧進出が、昭和35~36年(第一次)、昭和42~43年(第二次)をピークに行なわれた。ただ、地価の投機的な上昇に阻まれ、住宅、工場、倉庫、ターミナル等が小単位で入りまじっており、都市計画に多くの問題を残しているのは残念である。このほか、大井松田では第一生命の進出を機に工業化・宅地化が起っているほか、袋井でも浜松からの外延化の波は強く、いずれもインターチェンジを中心に新都市形成が行なわれている。

4. 農業の近代化促進

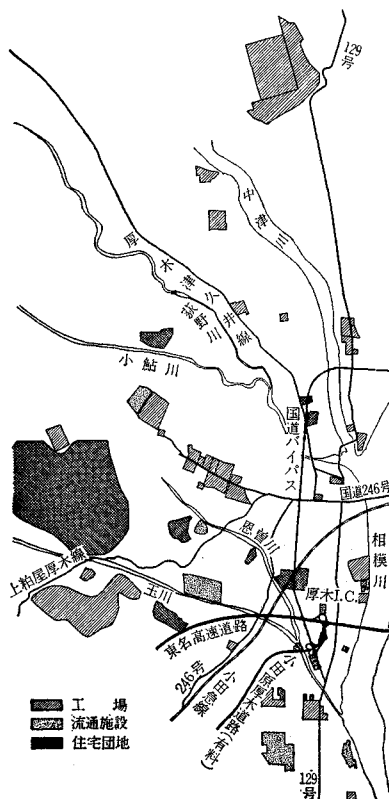
まず第一に新鮮さが要求される農産物にとっては大消費市場への集送条件は重要だが、時間距離の短縮、安定走行等をもたらす高速道路は、この市場条件を変化させることで主産地形成、市場圏拡大の効果を産地にもたらし、とくに家畜の生体輸送や鮮度低下率の大きい軟弱もの、また産地間競争の激しいものや遠距離産地のものほど高速道路利用が高くなっている。また、事情は異なるが、農村における工場進出が農外雇用の機会を増し、農家所得の増大をもたらすと同時に、農業生産規模の拡大にもつながりうるものとして期待は大きい。

さらに、今日では農業の役割を食糧供給産業としてのみでなく、自然環境保全、レクリエーション空間形成面からも、それを見いだしていこうとする動きが高まっている。

高速道路はこうした都市と農村を結ぶ重要な幹として機能しているのである。

5. 社会開発効果としての機能

以上の産業面での開発効果のほか、地域住民の日常生活環境をも大きく変化させているのを忘れてはならない。モータリゼーションの発展と普及は住民の日常生活の行動範囲を拡大させており、都市圏の拡大とあいま



東名高速道路厚木インターチェンジ周辺の発展状況

て広域生活圏の形成を可能とした。これにより、通勤・通学、買物等生活面での利益が広がり、また都市と接することで文化水準の均等化、また教育、医療等福祉面での利用機会が平準化し、さらに職業選択の自由も大幅に拡大するなど生活の中での効果は大きい。

6. 今後の課題

高速道路の地域開発効果を高めるため、道路余裕地の

なかに環境保全その他公共的利益に資すよう公園等の関連施設を設置した高速道路の多目的利用・共同開発事業が現在広く研究されており、欧米ではすでに多彩な実施例をみている。

これは、本質的には将来の再開発や環境保全のための先行取得であるが、高速道路が周辺地域に及ぼす騒音、大気汚染、地域分断、あるいは乱用開発などを防ぎ、自然的・社会的環境の保全と地域開発の調和をめざすために、わが国でも1日もはやく実現させたいものである。

土木学会コンクリート委員会・終局強度設計小委員会編

コンクリートライブラリー 34 鉄筋コンクリート終局強度理論の参考

B5・158 1600 円 並製

会員特価 1450 円 (〒 140 円)

目 次

●構造物設計の概念/河野通之 ●鉄筋コンクリート部材の諸性状 1. 曲げおよび曲げ圧縮/角田与史雄 2. 短柱/田辺忠顕 3. 長柱/岡村 甫 4. せん断一般/桧

貝 勇 5. アメリカにおけるせん断の研究/桧 勇 6. 西ドイツおよびソ連におけるせん断の研究/青柳征夫 7. ねじり/宮崎修輔 8. ひびわれ/角田与史雄 9. 回転限界/田辺忠顕 ●コンクリートの破壊/小柳治 ●コンクリート構造物の限界状態設計方法について/尾坂芳夫 ●部材の実用設計方法 1. スラブおよびはり/安本修一 2. アーチ/池田康平 3. ラーメン/池田尚治 ●一般構造細目 1. 道路橋の構造細目/池田尚治 2. 鉄道橋の構造細目/池田康平

現場技術者のための

仮締切工の設計計算法と施工法

東大教授・工学博士 福岡正巳/東北地方建設局長 神谷 洋編 B5判・330頁・定価3,400円・〒300円

■現場で土木技術者が独自に仮締切工の計画、設計計算ならびにその施工に当らねばならない時の最良の技術書。

〈 内 容 〉

1. 仮締切工の計画
2. 仮締切工の設計計算法 (橋脚, 河川, 港湾)
3. 設計実例 (道路, 河川, 港湾, 鉄道)
4. 仮締切工の段取と施工・施工管理

現場技術者のための

土圧・土留計算法と実例

東大教授・工学博士 福岡正巳編 B5判・350頁・定価3,700円・〒300円

現場技術者のための

基礎の施工法と施工機械

工博 斉藤義治/比留間 豊編 B5判・290頁・定価2,800円・〒300円

新しい仮設工事の設計と施工

八島 忠編 B5判・530頁・定価3,900円・〒300円

新しい土留工法

新しい軟弱地盤処理工法

工博 藤森謙一・内田 襄編 B5判・440頁・定価3,700円・〒300円

工博 藤森謙一・内田 襄編 B5判・460頁・定価3,700円・〒300円

東京都千代田区富士見
1-7-12 〒102

近代図書株式会社

電話(263)3871-2
振替東京 23801